

日下部 紀子

- 1 昭和十九年八月 四日〜十九年 十月十七日 久米川 二部三年
- 2 十九年十月十八日〜十九年十一月十八日 久米川 二部三年

毎日の絵日記が大変で、怒られ怒られ書いた記憶ばかりですが、四十余年たってみれば、何十冊の厚みと共に一年生〜三年生の殆ど唯一の資料となっていました。中でも集団疎開の頃のもの写真もわずかで、日記に書かれていることによっただけ思い出として残されています。此の頃山村留学という話を聞きますが、一人っ子で田舎のない私にとって集団疎開は本当に貴重な経験でした。こんな事は二度とあってほしくないけれど日記を見る度に御苦労の多かっただと思う先生方には、感謝の気持ちで一杯になります。

昭和六十三年八月記す
北村 紀子